

# 「総ぐるみ」新聞

NPO 総ぐるみ福祉の会事務所は日限山 4・44・23 (八四四一七四七七)  
入会や活動のお問い合わせ先は、事務所または「日限山荘」 日限山 4・7・1

## 上山 高史氏、田村 博氏出演の ジャズコンサート、大盛況のうちに終了

### ●お客様は早々と来場

去る三月十八日、西洗 港南プラザ自治会館の一階ホールは、大橋綾子さんご寄贈の大きな盛花が華やかに雰囲気盛り上げていました。午後二時からの開演に備えて、スタッフは一時から椅子を並べたり、ピアノの位置を動かしたり、マイクの準備などをおみえになり、常にならない早いご来場にて、多数の方が来てくださりという期待を抱きながら、設営をしておりました。

出演のお二人が到着する頃には、八十ほど用意した椅子はほぼ満席となり、まだ次々とお客様はおいでの様子です。

### ●ジャズ演奏「ついでに」

定刻となり、宮崎理事長の挨拶に続いてジャズ演奏が始まりました。

最初は、田村博さんのジャズピアノのソロ演奏「テイーフオートトゥー」。



セーターに黒のスーツというダンディなでたちの上山さんが登場。軽妙なトークやジョークを交えながら「モナリザ」「慕情」「シャボン玉」「カナリヤ」「虹の彼方に」他を歌ってくださいさり、楽しくうっとり過ごすうちに第一部を終了。休憩となりました。

この時会場後方は、ガラス戸が取り払われ、立って演奏をお聞きくださる方が多数いらして、熱気に包まれていました。用意された熱い麦茶でのどをうるおし、椅子を少しづつ前方へずらしたり、予備の椅子を追加したりしましたが、申し訳ないことに、お疲れになって帰られた方もありました。

### ●鐘の鳴る時の唄で終了

第二部は、「イースターパレード」「トウーヤング」「霧のサンフランシスコ」などの他、一部、二部で、美穂子夫人(作詞ネーム立木 見)が作詞、上山さん作曲の「星のささやき」「この道」が演奏されました。

最後は、上山さんが九歳の頃歌われたというNHKの人気ラジオドラマ「鐘のなる丘」の主題歌を、一番を上山さんが歌われ、二、三番を全員で合唱して終了しました。

### ●よこはま夢ファンドの補助金で実現

この日の参加者は、一六五人という多数のぼり、丸山台や日限山一〜四丁目、舞岡と、広範囲から集まってくださいました。今回は、日限山四丁目にお住まいのご縁で、プロ演奏家の上山さんにボランティア料金でご出演をお願いしましたし、NPO 総ぐるみ福祉の会を名指してご寄付くださった「よこはま夢ファンド」の補助金によって、入場料無料のジャズコンサートを開催できました。厚く御礼申し上げます。

終演後、「楽しかった！ 生演奏はすばらしいわね」「西洗にすばらしい方がお住まいなのね」「遠出しにくくなって、ご近所ですばらしいコンサートが聴けて、本当に嬉しいわ」「二回目のコンサートもぜひ聴きたいわ」といった感想が聞かれ、主催者側として、たいへん嬉しく思っています。

## 庄司俊二氏を囲んで第四回座談会を開催

交流事業としての第四回表記座談会は、先般三月十六日に、二十二名の参加を得て、日限山荘で行われました。その報告です。

### ●子ども時代から青年期

私は、大正十二(一九二二)年八月に、茨城県の久慈川沿いの山方町(現在の常陸大宮市)で生まれて育ちました。

生家は農家でしたが、もともとは士族であつたとのこと。小学校では着物姿や学生服の者が混じっていたし、また、中学校には制服に巻き脚絆姿で通い、軍事教練も受けました。出征兵士を見送る光景にたびたび出会うという時代でした。

中学校卒業後、二年ほど農業をしましたが、警察官の持つサーベルにあらがれて、昭和十八(一九四三)年に警察官の試験を受験、十九年三月に神奈川警察に入りました。

### ●召集されて、情報収集任務に就く

昭和十九年九月に召集令状が来て、第一航空情報連隊に入隊。その年の暮には南支方面第五航空情報部隊に配属されて、下関から輸送船にりましたが、太平洋戦争の只中のこと、日中走って夜は停泊するという航海で、途中亡くなった戦友は、艦上から水葬にされて行きました。

中国の九龍に上陸、広東を経て香港へ行き、ビクトリアパークの頂上で、無線の送受信、暗号解読などを行いました。

### ●終戦後の捕虜生活と帰国

終戦後十日くらいして、部隊と共に九龍に行き、丸裸の検査を受け、所有物をすべて取り上げられ、毛布二枚のみを与えられて、捕虜生活に入りました。

強制労働は、波止場の荷揚げで、大きな豚の半身を担いだり、船着場で、日本人の死体の山を見たりしました。また、食料不足でひもじい思いもしました。

港の使役に向かう時、ヤジや投石を浴びることは日常茶飯事、しかし、なかにはタバコや飴をくれるクーニヤン(若い娘)や、「切腹はダメだよ」と声を掛けてくれる年配者もいました。

昭和二十年の暮に、私達飛行通信隊員は小さな貨物船に乗せられ、行き先不明で出発。マニラの軍法会議に送られて処刑されるのではないかという不安がありました。幸い二十一年の一月に鹿児島に帰国。毛布二枚と現金二十円、無料切符一枚他を支給されて、満員列車で故郷へ向かいました。

### ●警察官として復職

故郷へ帰ると、仏壇に写真が飾られていて、死んだと思われていました。一か月ほどして、加賀町警察署に復職しました。

その後大磯警察署に転勤して、駅前で泥棒を逮捕したことを契機に刑事係となり、その二年後に部長に昇格。この部長時代に、知り合いの紹介で結婚しました。

昭和二十四年に警部となり、藤沢、大和、三崎、川崎、加賀町と転勤後に、一年間中野の警察大学で勉強しました。その後刑事課長として大岡警察署、県捜査一課、鑑識課、また、任警視となつて保土ヶ谷、川崎に勤務。その後、警備部参事官として赤軍派や中核・革マル派担当となつて、浅間山荘事件等の捜査に関わりました。警察署長になつて一年後に本部に戻り、保安課で麻薬・覚せい剤・刀剣等の取締りを担当しました。

昭和五十二年には、米国フロリダ州デーンバーで開催された国際警察庁会議に、代表の一員として出席。各国代表と警察行政全般、治安問題等について話し合い、見習うべき事が多くありましたが、我が国の交番制度が話題になり、かなり評価を受けました。

### ●第二の人生

昭和五十四年に警察を退職した後、銀行員、民事調停委員、司法委員、司法保護司、横浜市の福祉推進委員等を務めました。

若い時に志した司法の仕事に、七十五歳まで携われたことに感謝する現在です。警察の仕事は、人が楽しみ、休む時には忙しく、例えば、台風や災害発生時には指定場所に非常参集する必要があります。その都度家族に不安と淋しさを与えてきたわけで、苦勞の多かつたことに、感謝しています。

平成十五年の十一月三日、叙勲の栄に浴して家内共々宮中に参内し、陛下よりお言葉を頂戴したことは、この上ない光栄なことと感激いたしております。

社会福祉協議会主催の健康体操日程：西洗・港南プラザ：四月三日(火)、二十七日(金)

午後2〜3時